



全国連合退職校長会

会報

令和4年度

理事会・総会挨拶

全国連合退職校長会

会長 入子 祐三



皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。日頃より全連退の事業活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、令和4年度の理事会・総会を6月6日・7日に予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために自粛し、理事会・総会を一日開催とし、本日開催となりました。これもコロナ禍による事態としてご理解いただきたいと存じます。

本年度は役員交代の年度ではないため、副会長会・常任理事会の諸活動は、継続の形で進めてまいりたいと存じますので、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。なお、先にお知らせした諸会議等の日程や会場予定につきましては、三密を避ける新しい生活様式を踏まえて変更があるかと思っておりますので、ご承知願いたいと存じます。

この後、本年度の活動目標、事業計画を提案しますが、各都道府県からの意見を伺ってまとめたものです。各都道府県退職校長会の存在感を示す活動につながるものとして捉えていただけたらと思います。

文部科学省の中央教育審議会は「令和日本型学校教育を担う新しい教師の学びの姿の実現」を図る年としたいとしています。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善を進めたいとしています。そして、学校教育の基盤的なツールとし

てICTを最適に組み合わせたい方向性を示していきたいとしています。これは、コロナの感染防止の三密を避けるための観点からも学習形態を見直すための方策です。

全連退といたしましては、五校種校長会との教育懇談会を開催し、園や学校現場の声を聞き、各校種の要望内容の把握と支援を行ってまいります。また、現職校長会とも連絡をとり、必要な支援活動を展開し行動する予定にしています。文部科学省をはじめとする関連省庁や国会議員への要望活動も行ってまいります。

地区連絡協議会には代表者を送り、要望・意見を伺い、必要な行動をとるよう努めてまいります。コロナ感染拡大防止に一層のご配慮を頂きながらご健勝にお過ごしいただくよう祈念申し上げます。年度当初の挨拶といたしま

理事会・総会報告

日時 令和4年6月7日(火)

午前11時より

会場 スクエア荏原

ひらつかホール

出席者 正副会長 常任理事

理事 監事 62名

司会・進行 総務部長 田中昭光

開会に先立ち

○国歌斉唱(声を出さずに)

○物故者への黙祷

1 開会のことば

副会長 中川俊隆

2 会長挨拶 会長 入子祐三

3 議長選出

黒坂由紀子副会長、木村

幸治副会長を選出

4 議事

第1号議案

令和3年度会務報告

総務部長 田中昭光

第2号議案

令和3年度決算報告

並びに監査報告

・決算報告

会計部長 三上裕三

・監査報告

監事 横内清信

(7ページ)



会場風景

第3号議案

令和4年度役員承認

副会長の退任と就任

(東海北陸地区)

江本 隆 ↓ 結城正斉

(九州地区)

廣田稔夫 ↓ 伊藤圭二

第4号議案

令和4年度活動目標並びに

事業計画案

各部長・委員長から提案

(5・6ページ)

第5号議案

令和4年度予算案

会計部長 三上裕三

(8ページ)

第6号議案

「総会宣言」の採択

読み上げ 副会長 松井和夫

※各提案は原案通り承認されま

した。

8 感謝状及び記念品贈呈

(2ページ)

9 閉会のことば

副会長 中川俊隆



議長団

感謝状並びに記念品贈呈者

(1) 退任副会長

江本 隆様 (東海北陸)

廣田 稔夫様 (九州)

(2) 退任常任理事

梅原 勤様 (茨城)

須田 清様 (山梨)

(3) 退任理事

佐藤 利廣様 (山形)

堅畑 政行様 (石川)

土田 繁男様 (岐阜)

大塚 哲雄様 (静岡)

片山 智成様 (滋賀)

宮本 博覬様 (奈良)

山根 文男様 (岡山)

田中 淳夫様 (山口)

畑野 智司様 (愛媛)

池田 二男様 (福岡小)

濱砂 和雄様 (宮崎)

令和4年度役員一覧

監 事	常 任 理 事	副 会 長	会 長	本 部
酒野横橋荻藤三村岡田村本桜大 多西石新水	伊濱中久結松木黒入	藤田川保城井村坂子	由紀三	
井本内本原崎上山野中山間林保 田城田沼越	圭俊英正和幸	二治隆志齐夫	由紀三	
傳キ清誠武武裕忠仁昭信俊重丈正孝隆和 美ミ信司雄利三幸司光一信一則夫俊作三夫 雄子信司雄利三幸司光一信一則夫俊作三夫	福高鳥兵富群岩北東 岡知取庫山馬手道京	福高鳥兵富群岩北東 岡知取庫山馬手道京	由紀三	

理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	地 区
竹富川久 若田越保 洋剛達英	川坂池加堀近結 合野田藤田藤城 俊重富良繁正	澤稲松 口葉井 昭	佐鈴高小奈木 藤木橋山良村 俊弘一幸	千黒 田坂 由紀子	
大京滋兵 阪都賀庫	三愛静岐福石富 重知岡阜井川山	千埼群 葉玉馬	福山秋宮青岩 鳥形田城森手	北北 海海 道道	

事 務 局 員 長	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事 (副 会 長)	理 事
佐川 々木井 多美子 東東 京京	幸内押廣上作森福伊 地村川田田本永澤藤 正政稔由耕和秀主 忍弘昭夫子一雄昭二	立後石濱 石藤川田 文和	林徳廣塩中 永本川川 健正勝俊	加賀室 谷清
	冲鹿宮大熊長佐福福 繩島崎分本崎賀 岡(小)(中)	愛香徳高 媛川鳥知	山広岡島鳥 口島山根取	和奈 歌山良

全国連合退職校長会 綱領

われわれは 全国連合退職校長会の設立以来の歴史や活動を継承しわが国の教育の将来を見定め 会員としての自覚と誇りをもって ここに綱領を制定する

- 一 教育尊重の気運を高め
日本の教育の振興に寄与する
- 一 生きがいをもって生涯学び続け
充実した生き方を実現する
- 一 会員の親睦を図り 福利・厚生
の拡充に努める
- 一 地域の教育・文化の向上や
良好な環境の形成に尽力する
- 一 関係機関・団体と連携・協
力して 活動の発展を図る

平成十六年六月十七日

(設立四十周年) 制定

※今回は綱領唱和はなかった。

令和四年度 総会 宣言

新型コロナウイルス感染の収束が望まれる中、心身ともにたくましく生きていく人材の育成には、教育尊重の気運を高め、新しい時代に相応しい教育の充実・向上に努めることが大切である。また、今日の社会保障制度改革の動向を見据えて、会員の福祉の増進に努める必要がある。

この時に当たり、全国連合退職校長会は諸課題について考究し、時宜に応じた意見や提言を発信するなど、各都道府県退職校長会の連合体としての活動を進めていく。ここに、総会において、左記事項の実現に尽力することを宣言する。

記

- 一 各都道府県退職校長会との連携を一層密にし 健全な教育世論を喚起し 教育の振興に寄与する。
- 一 質の高い学校教育を願い 人材確保等教育諸条件の整備・充実を期し 政府・関係機関への要望や意見具申を行う。
- 一 安心できる社会保障制度の確立のために関係機関に要望を行い 会員の福祉の増進に努める。
- 一 「チーム学校」の働き方改革の支援と地域学校協働活動への参画を通して 家庭や地域の教育・文化の振興に努め 併せて生きがいのある生涯学習を実践する。
- 一 会員相互の絆を大切にし 情報の共有や共通理解を図り 関係機関・団体との連携を一層深め 組織の拡充・活性化を着実に進める。
- 一 国民ごぞつて教育の在り方を考える日として 国民の祝日「教育の日」の制定と活動内容の充実を図るため 関係機関や団体とともにその推進に努める。
- 一 東日本大震災・原発事故をはじめとする自然災害等により被災した地域の復興・創生と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに 会員の相互扶助と連帯の精神により支援に努める。

令和四年六月七日 第五十八回 全国連合退職校長会 総会

令和4年度 活動目標・事業計画

活動目標

全国連合退職校長会は、教育尊重の気運を高め教育振興への寄与と会員の福祉の増進に資することを目的とし、諸活動の円滑な運営に努め、各都道府県の退職校長会相互の連携を密にし、連合体としての充実した活動を展開する。

3 安心できる社会保障制度の確立のために関係機関に要望を行い、会員の福祉の増進に努める。

(会員の福祉の増進)

1 各都道府県退職校長会との連携・協力を一層密にし、組織の拡充・活性化に努め、期待される存在感のある退職校長会を目指す。

4 教職員が本来の教育活動に専念できるよう、外部人材の活用や「チーム学校」の仕組み等の働き方改革に関し支援を行う。

(働き方改革への支援)

2 質の高い学校教育を願い、定数・処遇改善や施設・設備等の教育諸条件の整備・充実を図るため研究・協議を深め、時宜に応じて政府・関係機関へ要望や意見具申を行い、教育の振興に寄与する。

5 地域全体で子供たちの成長を支え、地域の教育力の向上を目指す地域学校協働活動等への参画を通して、家庭や地域の教育・文化の振興に寄与する。

(社会貢献活動)

7 会員相互の絆を大切にし、会報やホームページ等諸情報

6 教育関係諸機関・団体と連携し、相互の協力・交流を深め、諸事業の円滑な運営に努める。

(諸機関・団体との連携)

(教育の振興)

の共有と共通理解を図り、組織の活性化に努める。

(組織の活性化)

8 生きがいのある生涯学習を実践し、会員の交流活動や研修・親睦を深め、豊かな生き方の実現に努める。

(生涯学習と豊かな生き方)

9 国民こそぞって教育の在り方を考える日として、国民の祝日「教育の日」の制定並びにその活動内容の充実を図り、教育尊重の気運の喚起・醸成に努める。

(「教育の日」の推進)

10 今なお復興途上の東日本大震災・原発事故をはじめとする自然災害等により被災した地域の復興・創生と教育環境の正常化を政府や関係機関に求めるとともに、会員の相互扶助と連携の精神に基づいて支援に努める。

(激甚災害地支援)

総務部

《総務部長 田中昭光》

1 本会の綱領や教育憲章の精神及び各退職校長会の意向を踏まえ、年度の目標を定め、各組織間の連絡・調整・相談等に当たるとともに、諸事業の円滑な進行、諸課題の解決に努める。

2 総会、理事会、副会長会、常任理事会等の企画・運営に当たる。また記念講演の企画・実施に努める。

3 関係省庁や中央教育審議会等への要望・意見具申・提言に努める。

4 文部科学省初等中等教育局長との教育懇談会の企画実現に努める。

5 全国組織の教育関係団体と連携するとともにその支援に努め、本会の存在意義の高揚を図る。

6 全連退情報・会報の発行やホームページの充実に努め、

事業計画

各都道府県退職校長会への迅速な情報提供をするとともに、情報の共有化を図り、会員の連帯感の醸成に努める。

3 「全連退教育憲章」の趣旨の徹底・普及に努める。

7 「令和4年度 年間紀要」の編集発行に努める。

生涯福祉部

8 「令和5年度の活動目標・総会宣言」の素案を作成する。

《生涯福祉部長 岡野仁司》

9 「財務状況健全化会議」「組織対策検討会議」「運営対策会議」の検討結果を部長会・常任理事会等に諮り、成果の具現に努める。

1 生涯学習活動の振興・充実に係る情報の収集と広報に努める。

2 会員並びに後進の生活安定・安全に係る情報の収集と広報に努める。

3 年金・高齢者医療・介護等の改善・充実に係る全連退の提言・意見を日本退職公務員連盟等と連携して関係省庁に要望する。

10 研修会を企画・運営し、情報の収集に努める。

3 叙勲における義務教育関係者の格上げと叙勲枠の拡大を関係省庁に要望する。

教育振興部

《教育振興部長 荻原武雄》

1 「教育の日」について、未制定府県・市町村の制定推進並びに制定都道府県・市町村の事業の充実に寄与する。また、国民の祝日としての制定を国に働きかける。

4 米寿・上寿を迎える会員を調査し、賀詞・寿詞を贈り長寿を慶祝する。

2 公立小・中学校における「道徳科の授業」の現状と課題について調査研究するため基本計画を立てる。

広報部

《広報部長 村山忠幸》

1 全連退の機関紙として、会報には主要な会議や中央省庁等への要望活動、教育情報等を掲載する。

2 本年度は、年4回（224号、227号）の会報を発行する。発行予定日は、6月30日、9月30日、1月1日、3月15日とする。

3 新会員勧誘支援用として、225号（9月30日号）または226号（1月1日号）を希望する。

都道府県各団体に増配する。

4 全連退ホームページをリニューアルし、その更新を適宜行う。

用に努めるとともに、「財務状況健全化会議」を定期的に実施し、将来展望をもった対応策を検討する。

教育課題委員会

《教育課題委員長 橋本誠司》

1 文部科学省等の情報を収集するとともに、当面する教育課題（教師の資質能力の向上、教員研修、探究学習など）について調査研究する。

事業委員会

《事業委員長 藤崎武利》

1 各団体の校長会の総会日程の把握及び祝意に関する事業を行う。

2 各団体の校長会の概要の収集・整理を行い、存在感のある事業等を紹介する。

3 本部としての研修及び情報交換に関する事業を行う。

会計部

《会計部長 三上裕三》

1 各都道府県の退職校長会と綿密な連携のもと、会員数の確保及び会費の増収に努める。

2 諸事業が順調に進められるよう、財務の適切な執行・運営

2 公立小・中学校における「道徳科の授業」の現状と課



連携を大切に

千葉県退職校長会

会長 西城 正俊

本会は、県下二十二地区の各退職校長会を組織基盤として、四千二百人を超える会員数のもと活動を行ってきた。

しかしながら、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの行事が変更や中止となった。理事会等の会議は、社会的適正間隔を維持できる会議場を確保して実施し、宴を伴う行事はすべて中止とした。

今年度も先行き不透明ではあるが、退職後の平穏で安定した生活維持のために、年金・医療・介護等の制度改善や充実を求める運動を行っていく。また、学校現場の応援隊として、現職時の経験を生かした地域学校協働活動の教育支援の活動も更に

広げていきたい。

明日を担う子どもたちの教育条件整備は不可欠の課題であり、定数の改善を含めた教職員の業務改善及び、給与・管理職手当等の充実、教育環境の整備については、継続して千葉県教育委員会への要望活動を行っていく。

喫緊の課題として、教職員の定年延長が話題となる中、「再任用校長」と「校長経験者職員」の混在等により、新会員となる退職者が「入会控え」ということになることも予想される。

いずれにしろ多くの活動は、全国連合退職校長会、千葉県退職公務員連盟、県内教育関係団体や千葉市退職校長会等との継続的な連携が大切となる。

今年度は特に、次年度の関東甲信越地区協議会千葉大会の準備を進め、HPや会議を通して、各地区との情報共有を密にした運営に取り組んで行く。

歳と共に人との繋がりが乏しくなりがちである。会員が情報

を共有し活動が広がるよう、これからも会員相互の繋がりを大切にしたり取り組みを進めていきたいと考えている。

支会情報交換の時間を大事に

長野県退職校長会

会長 本間 信

長野県退職校長会は14の支会からなる。昨年は3回の支会長会を計画した。残念ながら第3回は書面開催としたが、第1回・2回では、各支会の活動状況を報告し合い、課題について意見を交換した。共通課題は、会員の減少と財政の逼迫、役員の高齢化などであった。

会員減少の要因は二つあり、一つ目は新入会員の減少である。

これは、学校の統廃合による校長数の減少（＝退職者数の減少）であり、退職者の入会数の減少ではなく自然減である。二つ目は、途中退会者数の増加である。退会希望者は、「もう歳なので学校現場の応援団として

活動できなくなったから」「会員としてのメリットがないから」などを理由として述べている。支会長から、「学校現場で活動することだけが応援団ではない。登下校の見守りもあいさつも、応援団としての活動である」「会員であれば、自分が活動できなくともほかの会員がやってくれる。会員でいることがメリットである」などの意見が出され、退会の申し出に対しては、会員として留まるよう説得することを共通理解とした。

財政については、会員減による予算減少の中、慶弔費や郵送料の増加が財政逼迫の要因であると報告された。そこで県の事業である全会員名簿の作成・配布の是非について協議した。名簿は「支会の名簿は必要であるが、県の名簿はほとんど活用しない」「個人情報保護の点からも全員配布は必要ない」など意見が出され、作成を止めること

に決定し、その予算を支会活動補助費の増額に充てると決定した。

令和4年度も支会長会を年3回（6・11・3月）開催する予定である。支会情報交換の時間を十分に確保し、ざつくばらんに困っていることを話し合い、支会の「活動の充実」が図れるよう運営していきたい。

アフターコロナ

兵庫県退職校長会連盟

会長 久保 英志

兵庫県退職校長会連盟は、小学校（樟樹会）・中学校（のじぎく会）・高等学校（柏樹会）の各退職校長会で構成され、年一回の総会と数回の連絡会で各組織の連携を図り、会員の親睦・交流等の活動に取り組んでいます。

さて、新型コロナは、令和二年一月に国内で初確認されて以来、数度の緊急事態宣言にもかかわらず、依然として予断を許

さない状況が続き、社会生活は大きな制約を受けています。

各退職校長会でも、二年続けて総会が中止されるなど、会の諸活動や組織強化の面で大きな支障をきたしています。また、学校現場も、学習活動の制限や学校行事の中止等により、通常の教育活動もままならない状況です。さらに、コロナ禍での休校や出席停止と相まって、中学校での不登校が過去最多となるなど、子どもたちの生活自体に深刻な影響を及ぼしています。

そこで、アフターコロナへの期待と希望を込めて、以下のことに取り組もうと考えています。

①会員相互の絆の維持と強化
会員の交流・情報交換の手段として、ハードルは高いと思われませんが、SNSやホームページの活用等、新たな方法を工夫し、参加意識を高める魅力ある活動を推進することが重要です。

②学校現場への教育的支援
児童生徒への学習支援や保護

者への子育て支援、若手教員の育成、管理職への支援等、退職会員の知恵と経験を生かす場面は数多くあるはずです。

③地域社会への貢献

地域と学校をつなぐことは、まさに退職会員の活躍の場です。地域の一員として必要とされる存在となるのが、人生百年時代と言われる現在、会員自身の新たな生きがいの発見にもつながるに違いありません。

活動に充実感を求めて

香川県退職校長会

会長 後藤 文男

コロナ禍の活動は、変更・中止と書面による表決・情報交換等が多くなり、会員の意識が深まる活動の減少傾向を招いた。本年度は人数制限等の感染拡大防止対策のもと定期総会を実施し、心新たに活動を始めた。

まず、「運営の充実」をめざす。従来、四部会（総務、研修、広報、福利厚生）あった専門部

を総務部、研修部、広報部に整理統合し、副会長が指導助言役として担当することになっている。

また、九月に理事会（各退職校長会の会長で組織）と事務局長会の合同開催、年度末には事務局長会の単独開催を行い、協議の充実や運営上の課題・実務上の工夫の情報交換等を大切に行っている。次に、「教育振興への寄与」である。関係機関や諸団体との関連性を熟慮した側面もあるが、教育尊重の気運を高めながらの実施である。教育諸課題に関する報告・要望は、各退職校長会の意見集約を重視している。また、七月には課題解決に取り組む学校の姿の会報への掲載、八月には県小中学校長会との教育懇談会、活動主体や財政基盤に課題があるものの地域の

の実態に応じた教育支援活動、「かがわ教育の日」実行委員会の一員としての活動を行っている。そんな中、適時性を踏まえた情報発信を見直しながら、教

育の現状理解の深まりと、学校を応援する気運の高まりにつながるよう努力を重ねている。一方、「豊かな日々を求めて」を發刊する年である。三年に一度の發刊であり、趣味や特技を含む生涯学習の視点に立った内容を編集している。表紙絵や合紙など手作り感溢れる会誌である。

3年ぶりの総会を終えて

鹿児島県退職校長会

会長 内村 正弘

コロナ禍のため、二度に渡り総会が中止、鹿児島県では未だに感染者数が高止まり状態であった。一方、このところ若者中心の感染の広がり、経済活動中心の社会風潮の中、3回接種している高齢者は十分に対策をすれば社会参加活動を始めてもよいのではと総会実施に踏み切った。当日の十分な対策はもちろ

んのこと総会そのものは祝辞等を紙上紹介とするなど時間を短縮して長時間接触を避けた。しかし、こういう時期に総会を開催するのかもしれない。総会当日（令和4年5月10日）の参加者は、三年ぶりの開催ということもあり積極的に、生き生きと活気に溢れており、一人ひとりがコロナ対策など十分に心得て積極的に対応してもらい、実にスムーズに会が進行され、多くの方々から開催されてよかったという声が聞かれ、大きな力を得た。

この2年間、会議等中止することが多くあり、せめて会報の充実に力を入れ、工夫改善に努めてきたが、人と人が対面することの大切さを改めて感じさせられた。

何かと様変わりしたこの2年間を機に、今後は各支部と連携を図りながら社会参加活動の見直しや開発に努めたい。

各地の会報紙より

群馬県退職校長会

「退職校長会だより」第83号

組み合わせでなんとなく

良いものを！

北群・渋川支部 関上 博

先日、寺社建築の屋根替えを行う匠（檜皮葺師・柿葺師）の意見を目にしました。研ぎ澄まされた、息をためられる空間の中で、どのような構えや日常の準備が説かれているかと期待していた私にとっては、驚く言葉の連続でした。

「職人の仕事は失敗がつきものである。失敗の山はチャレンジの山、モチベーションが下がらなければよしとする。そのためには、目標はアバウトなぐらいがよい。また、仕事上の目標を決める際に、完璧なものを求めようとすると、たいていは仰々しい枠組みにとらわれ、これでもかといじくりまわしているうちに、プランそのものが頓挫してしまう。そこで、私なら

自分の尺度で8割できていれば合格とする。我々の仕事は、国宝クラスのここ一番の時にはホームランを打たねばならないが、通常の仕事はヒットでよし、2塁打なら万々歳とする。毎回全力で当たることは理想だが、息切れしてしまう。また、親方とすれば、若い職人に華を持たせるため犠牲フライを打ち上げてやったり、奇襲のセーフティーバントで得点をあげてやったりもする。それを効果的にするためには、しなくてもいい仕事は極力省くようにする。仕事は自分なりの優先順位をつけてひたすら上位から片付けていく。本

当にやらなくてはならない仕事と、なんとなくやっている仕事とを分け、90点以上を求める仕事と60点から70点で合格とする仕事を組み合わせ、全体としてうまくいっているとした状況を作るようにする。」とのことでした。

読み終えて、驚きと、なるほどと思うことが次から次へと頭の中を駆けめぐりました。

今、教育現場では、90点以上

を意識するあまり、健康を損ない心を病む職員が後を絶ちません。「子どものため」と自分で自分にむち打つ姿が日常茶飯です。また、教育は理論と計画に基づくものと論され、膨大な資料に目を通すことが無意識のうちに行われています。「このことが不要ですか」と問われると必要と答へざるを得ません。あれも必要これも必要と考える中で、身動きがとれない状態になっています。そして、じわじわと跡を継ぐべき若い人たちが教職を敬遠していきます。なんとか応援できないものかと焦るのですがいい考えが浮かびません。そんなとき、この匠の意見を目にしました。この考えを教育の場でも取り入れられないものかと考えます。

山口県退職校長園長会

「会報」第129号

泳いで札幌へ、

Uターンはゆつくりと

新南陽支部 三浦 由紀子

現職時代の私とは結び付きに

くいスイミングを始めたのは、定年退職後、四年間の適応教室勤務を終えてからでした。何か運動をしなくてはと考えていた矢先、先輩のU先生から「プールの中を歩きましょう。」と声をかけられ、それならできると、スポーツジムに入りました。

ところが入ってみると、自分とさして変わらぬおじさん、おばさんたちが、フィンを付け、ビート板につかまってバタ足から…：。それなら私もと、週三回のスイミング教室に通い始めました。

プールのない時代に育った「犬かき五メートル」の実力しかない私でしたが、インストラクターの段階を踏んだ巧みな指導により、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ（バラフライは×）と、次々泳げるようになりました。

一番楽しかったのは、パワフルなK先生の指導を受けていた七年間、シンクロチームに所属し、毎年八月に県のマスターズ大会の際、余興として出演できたことでした。スマップの「世界に一つだけの花」の曲にのっ

て、プールの中で、逆立ちしたり、でんぐり返りをしたり…：。チームメイトと息を合わせ、歳を忘れて頑張りました。

「千里の道も一歩から」…：。スイミングを始めて十三年目、七十七歳の四月、泳いだ距離が二百四十五、四万メートル（記録手帳八冊目）となり、計算上「札幌」に到達しました。実感がないのは当たり前ですが、記念にいただいた小さなトロフィーは、心の支えとなっています。

今、八十六歳、新型コロナウイルス禍で中断を余儀なくされた期間を除いて、週三回のプール通いは続いています。「ハダカ」ならぬ「水着」の付き合いで得た友の笑顔に出会い、元気をもらっています。

Uターンで向かっている先は、間違いなく西方の岸辺ですが、その岸辺が遠いことを願って、一かき一かき、ゆつくり泳いで行きます。



宮城県退職校長会

「会報」第44号

やっぱり「A・T・G」

白石刈田支部 狩野 隆

「A T G コール」で見送られながら白石中学校を最後に何とか退職を迎えることができました。これもすべてたくさんの方の良き出会いのお陰と感謝しております。

今振り返ってみますと、教員になりたての頃は無鉄砲で生意気なやつでした。そんな私の出っ張りや角を丸めてくれたのがたくさんのお出逢った方々です。時にはぶつかり合ってたげがとれ、時には教えによってそぎ落とされ、さらには子どもたちと保護者の皆様に支えられながら、教員として成長でき（今でもまだ未熟者ですが）何とかここまでやってこることができました。だからこそ出逢った全ての方々へ感謝・感謝です。

そんな私が子どもたちに伝えてきたことは「A T G で自主・自律」です。A…明るく、T…楽しく、G…元気よく、みんな

がそうなるためにもどうしたらいいかを自主・自律の精神で考えて行動しようということでした。今は学校現場を離れ、子ども心のケアハウスで、課題を抱えた子どもたちのサポートについています。そこで今までのように「ATG」をテンション高く唱えると「ついて行けません」という雰囲気になります。人それぞれの「ATG」があつていいのだということ逆を教えられるています。

現役時代の「ATG」は「明るく楽しく元気よく」でしたが、今の「ATG」は「A..あんまり、T..たくさん、G..がんばらない」になりました。少しゆつくりと自分の時間を過ごすことができるようになりました。

広島市退職校長会

「会報」第93号

今日を生きる

安佐南区 永松 茂野

平成31年4月、医師はMRI画像を前に「脳梗塞です。白く

なった脳の部分は元に戻りません。リハビリをお勧めします」と話された。左半身麻痺により、歩けない、体のバランスがとれない、階段の昇降ができなくなつた。

総合病院からリハビリテーション病院に転院後、二か月余、歩行、階段の昇降、左手の訓練など、延べ二十四名の理学・作業療法士の方々に支援指導を頂いた。

若い療法士のやさしい言葉掛けと、常に患者に寄り添い、悩みを傾聴される姿に励まされた。徐々に、歩行、階段の昇降ができるようになった。「破損した脳神経は元に戻らなくても、リハビリで神経回路のバイパスができる」と言われたことに、希望がもてた。

院外一周コースの歩行訓練は、

季節の草花や木々の名を調べ、蝶を観察し癒された。毎日草花を摘み、写生し続けた一枚の絵、

『リハビリの丘の草花』。部屋の担当看護師に「談話室に掲示しましょう」と言っていたのだ。体のバランスは取りにくい

が、会話ができ文字や絵をかきことができ、何より命があることに感謝した。

私は、予期せず脳梗塞になつたが、これからの人生を深く考える機会となつた。と同時に、リハビリで受けた、相手に寄り添つた励ましや言葉掛けが、十分に教育現場でできていたかどうかと振り返っている。

現在は、要支援・リハビリを続けながら、ガーデンングと四季の花々や生き物の写生を楽しんでいる。多くの人々の温かい支援のおかげで、今がある。

コロナ禍、今日を生きていることに感謝し、これからの人生を楽しむ目標を立て、前向きに生きたい。

秋田県退職校長会

「会報」第98号

「八十九歳の卓球選手」

鹿角 露口 晃

「私の目の前にいるのは、八十九歳の選手。彼はバックハンドが得意。一球目のサーブはロングサーブでくるだろう。気を

付けなければいけないながら、レシーブの体勢をとる。そして、審判の試合開始の声を聞く。『ラブ・オール』

ラージボール卓球を始めて三年。生活習慣病予防と運動不足解消のために、学生時代を思い出しながら、重い体にむち打つて始めた。

所属するクラブは、総勢四十一名。平均年齢は約七十二歳。最高齢は九十一歳で私は下から数えて七番目。退職して初めてラケットを握つた方もいれば、全国大会出場経験者もいる。膝に人工関節を入れている人もいれば、義眼を目に入れている人もいれる。従って、技術レベルはピンからキリまで様々であるが、そこがまたおもしろい。試合になると、誰もが真剣にプレーを楽しんでいる。

一緒に卓球をしながらふと思ふ。八十九歳で仲間と一緒に、普通にプレーできることはすごいことだと。卓球歴は約二十年。いくつかの持病を持っているとはいえず、背筋を伸ばし、力強くラケットを振る姿には八十九歳

とは思えないパワーを感じる。ミスすると唇を噛んで悔しがり、スマッシュが決まるとガッツポーズをとる。まさに体いっばいに卓球を楽しんでいる。八十九歳は言う。「卓球は私の生き甲斐、もっと上手になりたい」と。真夏の練習の時には、休憩時に塩分補給にと塩飴を一個くれる。その優しさがまた嬉しい。

八十九歳までは、自分は後二十二年。果たして同じぐらいの年齢まで続けられるかどうか分らないが、気持ちだけは先輩に負けないう、常備薬を片手に、健康を第一と考え、一日二時間・週二回の卓球を、これからも精一杯楽しんでいきたい。

栃木県連合退職校長会

「会報」第121号

趣味を生かして笑顔を：

元鹿沼市立石川小学校長

半田 史子

私は、稲取に旅してつるし雛に出会いました。貧しくお雛様を贈れない母親が、自分の大切な着物を裂いて、孫の成長を

願い一針一針心を込めてつるし雛に仕上げ贈ったというのが始まりと言ひ伝えられているそうです。

私は、その美しさに心奪われ、いつか自分も作ってみたいと思っていたときに友達に誘われてのめり込んでいきました。そんな中、婦人会等いくつかの会から指導の依頼があり、それぞれ月二回の活動が始まりました。

一針一針心を込めて縫い上げる細かい作業ですが、仲間と語りながらの制作はとても楽しく、出来上がるたびに感動と笑顔の輪が広がり、皆生き生きと輝いています。そのほかに干支や正月飾り等縁起物も制作。

現在つるし雛教室を三か所、高齢者施設での折り紙や書道のボランティアを四か所、趣味を生かして笑顔を届けたいと、楽しみながらボランティアを続けています。

コロナ禍の中で活動はすべて休止。学校や施設で使っていただきたいと一人お手玉やフクロウ（不苦勞）を大量制作しています。

今は、一日も早くコロナが収束し、皆さんの輝く姿と笑顔を思い浮かべながら活動が再開できる日がくることを祈るばかりです。

岐阜県退職校長会会報

「彩雲」第198号

憧れの暮らし

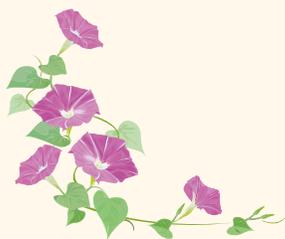
理事 大竹 恵子

現役の時、ずっと憧れていた暮らしがあった。平日に、あちこちのお店のランチに行き、おいしい食事をする。毎週何かしらの公民館講座に通い、趣味を広げること。スポーツジムに毎日通い、健康でいること。

退職後、勇んでランチに出かけ、三か月経った頃には体重が増加し、濃い味付けに閉口し、終わった。子どもの頃からお世話になった給食が、いかに優れたランチであったかを再認識した。そして、スポーツジムに毎日通うには強靱な意志が必要だと分かった。それでも週三回程は通い、ヨガやピラティス、背泳ぎ等で肩こりが解消したが、

コロナ禍により退会した。唯一、続けているのが公民館講座である。エコラフトによるバッグやカゴ等を作る講座に半年通い、その仲間ですら自主講座を立ち上げ、月二回だが、楽しく様々な作品を制作してきた。

町の文化祭で展示や即売会も行い、やりがいを感じていたが、この二年間は文化祭も開催されず残念だ。夏休みの子ども講座では、皆で作品作りの手助けができた。公民館の予約、材料の注文等、世話役は手間ではあるが、新たな友人ができたことがうれしい。これがきっかけで、近所の方々とも作品を作り、ティータイムができることは、憧れの暮らしに近づいていると思う。



五反田だより (事務局)

令和4年、新しい年を迎えて、コロナ感染者数も減少し、いよいよ収束かと思われ、「今年は初詣に行こうかな?」と思いましたが、自粛しておりました。

案の定、1月中旬ごろから感染者数が急増し、東京だけで1日2万人以上も感染という第六波となり、電車や買い物もためらう二月となりました。

今年の1・2月は例年以上に寒く、雪も降り2回雪かきをし、久しぶりに雪の重みや硬さを味わいヨレヨレになりました。また、この時期は入試シーズンで極寒の中、そしてコロナ禍の中受験生が気の毒でしたが、皆さん負けずに黙々と頑張っていました。学校も大変だろうなと、改めて思いました。進路関係、卒業式関係、今年度のまとめ、次年度の準備等々、頑張つて欲しいとエールを送りました。

3月に入り急に暖かくなり、梅が咲き、河津桜が咲き、各地

で袴姿の卒業生が見られ、この苦しい状況の中とても嬉しく感じました。「卒業生よく頑張りました。おめでとう!」健康に気を付けてそれぞれの進路で活躍して欲しいと思います。

そして3・11は東日本大震災から11年で辛く悲しい映像が放映され、改めて被災地への支援と防災への備えの大切さを再認識いたしました。また、2月下旬から始まっておりましたが、まさかのロシアによるウクライナへの侵攻という大変な事態となっており、悲しく悲惨な状況が報告されております。

このロシアの侵攻とコロナは世界中の人々の理解と協力であり越えなければなりません。

3月下旬からは、見事な校のシーズン到来。嬉しい入学式、入社式おめでとございます。苦しいことや辛いこともありませんが、力を合わせて乗り越えていきましょう。

テレビばかり見てないで、道路のゴミ拾ってきます。(FT)

◇4月

- 7 部長会
- 11 教育課題委員会
- 15 令和3年度会計監査
- 22 部長会
- 28 第1回常任理事会
- 28 部長会

◇5月

- 9 教育課題委員会
- 13 部長会
- 16 生涯福祉部会
- 23 教育振興部会
- 24 部長会

◇6月

- 2 部長会
 - 7 令和4年度「理事会・総会」
 - 13 広報部会
 - 15 部長会
 - 16 教育課題委員会
 - 20 広報部会
 - 22 部長会・全国幼・小・中
 - 27 広報部会
- ・高・特支・校園長会代表との教育懇談会

編集後記

○今もコロナ禍の中で制約された生活が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

○今年度は規模を縮小しての理事会・総会が3年振りに開催されました。ここに関連記事を掲載いたしました。

○「都道府県だより」の中でも今年度は総会を再開した県がいくつかあり、徐々に活動が戻りつつあることを感じます。

○「地方の会報紙より」を「各地の会報紙より」に改めました。そして、多くの会員の文を掲載しました。ぜひご一読ください。

全連退会報 (224号)

発行 令和四年六月三十日
 発行所 東京都品川区東五反田
 五二一三三三三〇八
 全国連合退職校長会
 電話 〇三三四四二八七六八
 FAX 〇三三四四二八七六八
 Eメール info@kenrentai.org
 振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇〇
 ○責任者 入子 祐三
 印刷 株式会社 信行社
 電話 〇三三四三三三三六二二